

# 小野子山山行記録



目的地	小野子山(赤芝口～小野子山～中ノ岳ピストン)	期 日	平成17年10月23日(日)
山人	笠原正雄・澄子 斉藤昭英・芳子 五十嵐千恵子	特 記	県内はすべて雨。斉藤氏提案の晴れの群馬へ

地点名	(着)～(発)	天候	記 事
与板発	6:20	雨	長岡～沼田高速道。六日町あたりから山が見え始め、巻機山方面や茂倉方面の冠雪を見る。特に上越国際の上に苗場スキー場が見え、コースまではっきり分かる。国境の向こうは青空で明るい。
赤芝登山口	9:10～9:30	曇	登山口を探し当てるのに少し行き来した。路側に駐める。他に3台。
小休憩	9:50	晴	少しの間コンクリートが敷いてある道だ。斉藤氏石黒会長に電話している。この後ロープが施してある結構な登りを進む。
姉妹ツツジ	10:25	〃	県指定天然記念物。コース標識を見逃して直登で尾根道に上がる。
1181標高点	10:30	〃	喬木に隠されているが両側は急斜面だ。多少のアップダウンで樹林の道がしばらく続く。小野子山まで往復の約10人の下山隊と出会う。
小野子山	10:45～11:00	〃	一度やや降りて登り返す。雨乞山からのコースと頂上で合わせる。行く手の中ノ岳・十二ヶ岳が見えるが、のぞき込むような下りだ。
林道分岐	11:15	〃	丸太土留め階段を大下り(約230m)して最低鞍部。急登登り返し(約210m)へ。一度傾斜が緩み気分の良い道を歩く。小野子山頂先行の2人を追越す。
中ノ岳	11:45～1:30	〃	小広場でテントを張る。登山者が多ければ苦情が出たであろう程の広さだ。カセットコンロで寄せ鍋やうどん・ラーメンを煮る。調理と外からの陽差しで、テントの中は暑く汗ばむ。初冠雪の浅間山や苗場山・谷川連峰の展望を楽しむ。十二ヶ岳は近いが、やはり大下りだ。今日はここまで。先ほどの2人も中ノ岳までと言ってはいたもののここで引返した。
小野子山	2:25～2:40	〃	往路を降りて登る。中ノ岳直下で小野上村から三山周回の団体と行き交う。雨乞山のコースを少し降りて覗いたが、こちらもかなりの登りだ。
赤芝登山口	3:30	〃	良く晴れていて、途中展望が開けると向かいに子持山が対峙し、獅子岩が突き出している。
		〃	高山村健康センターで入浴する。外に出ると少し陽が落ち始めたが、三山が良く見えて、大汗をかいた鞍部がくびれている。
与板着	9:00	〃	今度は月夜野ICから高速にのる。長岡・新保でハンバギをして帰宅。

当初、銀の道から道行山周回、あるいは八石山を考えていたが、越後はすべて雨模様である。前夜斉藤氏から「群馬は晴れ」との電話で、この山を目指した。十二ヶ岳を加えて小野子三山という。小野上村から登る周回コースもあるが、今回は小野子山に一番近い赤芝口からのピストンとした。小野子山までは急傾斜があるものの、それほど時間は長く感じなかった。しかし、ここから中ノ岳への急降下を見ると、帰りの登りの難儀が思われた。

表日本、裏日本とはこのことだろうか、帰り道月夜野辺りまで良く晴れているのに、谷川PAに近づくと行く手は黒い雲で雨が強く降って来た。トンネルを過ぎるとやはり越後は雨だった。ただし、長岡に着く頃には止んでいた。

斉藤夫妻とは6年ぶりの山行であった。五十嵐さんも加わって楽しい一日となり、かつ、上信越国境初冠雪の翌朝の印象深い山旅となった。